

2025年11月19日

犬山市の保育・子育ての充実を求める請願書

犬山市議会議長

大沢 秀教 様

請願団体 犬山市保育を守る会

請願代表者

住所

氏名

紹介議員

外 2768名
岡村千里
ビアンキ恵子
岡 寛 小川 隆広

請願主旨

犬山市では、国基準の減免対象者の給食費について、給食費（主食費）を全額免除、第3子以降の副食費を免除とされています。しかし、物価高騰が子育て世帯の家計に大きな負担を与えている中、対象外の家庭において給食費の負担は深刻です。

さらに2024年4月からは子ども未来園・犬山幼稚園において、3歳児以上の保護者負担による給食費が月額600円値上げされました。給食は子どもたちの健やかな成長に欠かせないもので、保育の一環である「食育」を担う重要な役割を持っています。本来、給食費は公費で賄われるべきであり、さらなる値上げを保護者負担にすることは、全国で広がる給食費無償化の流れに逆行するものです。

近隣では、大口町において2025年4月から小中学生・幼稚園児・保育園児の給食費が完全無償化されました。質の高い給食の提供や給食費の無償化などの経済的な子育て支援は、子育て世代の定住促進や少子化対策にもつながります。犬山市においても、子育て世帯の負担軽減のため、給食費の無償化を実施してください。

また、犬山市では保育士不足を理由に「育休退園制度廃止」を見送っていますが、厚生労働省（子ども家庭局）による保育士の登録者数と従事者数を見ると、令和4年では、登録者数1,787,000人中、従事者数681,000人、従事していない保育士数1,106,000人と、保育士の資格は持っていても実際に、保育士として働いている人が極端に少ないことがわかります。保育士として就業した人の退職した理由として、「職場の人間関係」「仕事量が多い」「労働時間が長い」「給料が安い」などの声があります。過酷な労働状況に加え、労働に見合う給料が得られないことが、保育士不足の原因となっています。保育士不足解消のためには、保育士の処遇改善を速やかに実施することが急務です。

子どもを安心して産み育てられる社会の実現は、今を生きる私たちすべての責務です。「犬山の子どもは犬山で育てる」という理念のもと、犬山市においても誰もが安心して子育てできる環境の整備を強く求めます。



取り扱い団体 犬山市保育を守る会 inuyama.hoiku@gmail.com



請願項目

1. 子育て家庭の負担軽減のため、中学生以下のすべての子どもたちの給食費の無償化を実施してください。
 2. 保育士不足解消のため、保育士の処遇改善をしてください。
-